

## 比内中ふるさとフォーラム

十一月十二日(火)比内中ふるさとフォーラム「十年後、どこにすんでいるのか」こんな町だったら」が行われました。一年生テーマ「ふるさとを知る」体験学習から感じた比内」、二年生テーマ「特産物の意味」とんぶり学習から学んだ比内」、三年生「自分の生きる町」都会から見たふるさとと比内」を話し、一年生は松原がコーディネーターを務め、二年生は阿部重信さん、三年生は若狭公夫さんが担当しました。全校アンケートでは将来「東京に住みたい」が百五人、比内が百七人でした。半数は県外で経験とスキルを磨き、比内に戻って起業して欲しいものです。(松)

## 大葛温泉市場お客様感謝デー

昨年好評だった大葛温泉市場お客様感謝デーが今年も十二月二十二日(日)に開催されます。おしるこ無料サービスや漬物、赤飯、山菜煮つけ、饅頭、パンなどの販売を検討しています。(松)

## アキちゃん

作あめり・絵あきお 027



## 協力隊任期後に向けて

地域おこし協力隊は外部の人材を新たな地域の担い手として受け入れ、身内だけでは出てこないよそ者目線の発想や地域資源の再発見を期待し、共に地域課題を解決しようという制度です。

大葛の地域コミュニティは活発です。協力隊着任以前より、盆踊りを合同にしたり、大葛温泉の運営を町から引き継いだり、地域応援プランに取り組むなど地域課題を解決してきました。高若セクターも様々なグループが活発に利用しています。お祭りや地域行事などのコミュニティの活性化は協力隊なしでもできていました。

一方、私達が到着した時の地区人口が七一人、それが現在六四二人ですから毎年二十五人程減っています。何も手を打たなければあと二十年で二桁の人口になるでしょう。大葛の最大の地域課題は人口減少と少子高齢化による地域力の低下を如何に食い止めるかです。求める仕事がないから若者が大葛を、大館、秋田を出ていきます。

地域課題の処方箋は雇用創出と移住者受入です。その拠点となり、V字回復の起爆剤となる潜在力を持つているのが旧大葛小、旧大葛保育所の活用です。これはお上頼みにするものではなく、地域力だけでなんとかなるものでもありません。地域住民と行政の協働がなければ実現しないでしょう。そうした考えの下、この三年間様々な提案を行ってきましたが、実現の道筋を付けられずにいます。

さて、協力隊なき後、地域ができることは何でしょうか? 地域内の空き家の持ち主に空き家バンクへの登録を働きかけるといようなことなら今からでもできることです。「来る者拒まず去る者追わず」では、移住希望者は受け入れに積極的な地域に流れてしまいます。大葛温泉の敷地拡張が次のステップの契機になるかもしれません。婚活支援もより具体的な施策が必要でしょう。この三年間で私達の活動が少しでも地区の将来を考えるヒントになっていれば幸いです。私も当事者の一人として関わり続けられるといいのですが。(松)

## 編集後記

十一月十日、台東区の「精養軒」でふるさと比内会総会・懇親会が行われました。夫婦共に講演をする予定でしたが諸事情により上京できなくなり関係各位にご迷惑をおかけしました。十一月十七日(日)は第七回高校生まちづくり会議が行われ、パネリストを務めました。十二月七日(土)には城南小PTA総会で講演します。大葛新報をご愛読いただきありがとうございます(松)